

(様式2)

校 種	㊦ ・ 中 どちらかに○	学校番号	9	学校名	宇都宮市立陽南小学校
-----	-----------------	------	---	-----	------------

平成30年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・ 国語では、学年によって差があるが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率が市の平均より高く、「読むこと」は市の平均より低くなっている。
- ・ 算数でも同様に、学年によって差があり、全ての領域で市の平均を下回っている学年もあるが、平均を上回っている学年もある。数量や図形についての知識・技能はやや上回るが、小数や分数などの基本的な知識や技能に関わる問題に課題がある。また、個人差があるので、個や学級集団の底上げを図ることが課題である。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・ 「勉強はすき」と肯定回答している児童は、学年によってばらつきがある。授業への取り組み方については、「授業の始まりに席につく」「先生から指されたら返事をする」「話をきちんと聞く」という基本的な学習態度が身に付いてきていることが分かる。
- ・ 「進んで学習に取り組む」と肯定回答している児童は、学年によって差がある。
- ・ 家庭学習については、どの学年でも、市が示している各学年の目安の時間をおおむね満たしているが、学年が上がるにつれてその割合が減少する。また、平日、3時間以上学習する児童もいれば、家庭学習を全くしないという児童もあり、学習時間の個人差が大きくなっている。また、「計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」が市の平均を下回っている。
- ・ 「いろいろな種類の本を読む」ことについて、どの学年も80%以上の児童が楽しいと肯定的に回答している。

(3) 授業等への取組状況から

- ・ 「ようなん授業のきまり」を焦点化し、重点的に指導に取り組んだことで、基本的な学習態度が身に付いてきた。また、「授業でのめあての提示」を各クラスで徹底したことで、児童が見通しを持って学習に取り組めるようになったが、学習の振り返りの活動に課題が残る。
- ・ 授業でのペアやグループ活動の取り入れ方を工夫することで、子供たち同士で学び合う姿が見られた。さらに一人ひとりが自分の考えを持ち、発言できるようにさせたい。
- ・ 算数では、学年の実態や単元の特性に応じて、習熟度別コースや少人数指導など、TTの活用を工夫したので、基礎・基本の定着が図られ、結果にも表れてきている。

2 今年度の重点目標

だれもが「楽しく・わかる・できる」授業の創造

～学校図書館の効果的な活用を通して～

3 今年度の取組（「平成 30 年度指導上の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

- (1) UDL (Universal Design for Learning) の視点を取り入れ、一人ひとりが「楽しい・わかる・できる」授業を行うことで、主体的に考え、学び合うことのできる児童の育成を図る。
 - ① 学習に向かう基本的な態度を確実に身に付けさせる。
 - 「ようなん授業のきまり」の振り返りを生かし、実態に応じて、確実に定着させる。
 - 話の聞き方・話し方については、授業や学校生活全体の中で重点的に指導していく。
 - ② 学習指導の工夫・改善
 - 国や県、市で行う各調査の結果を分析し、改善策を検討して指導に生かす。
 - 全教員で、UDL の視点を取り入れた授業づくり（各教科）を研究し、実践する。また、学習の振り返りの活動を充実させる。
 - 活動に応じて、ペアやグループなど学習形態を工夫し、共に考え学ぶ態度を育てる。また、グループでは発言できるが全体では発表できない児童への支援を工夫し、クラス全体での練り合いができるような教師のコーディネート力を向上させる。
 - 少人数、習熟度、コース別など単元や活動に応じて、3 年生以上で、TT を効果的に活用し一人一人の力を伸ばせるようにする。また、朝の学習のパワーアップタイムの時間に、数と計算等の学習を系統的に行うことで、基礎基本の定着を図る。
 - 各教科の学習と総合的な学習の時間を適切に関連させたり、体験活動、外部講師による出前講座などを効果的に活用したりして、学習への興味関心を高め、教科の学習内容を広げたり深めたりすることで、キャリア教育の充実を図る。
 - ③ 読書活動の充実
 - 朝の読書の時間を日課表に週 2 回位置付け、読書の習慣化を図る。また、朝の時間に図書館を開館し、読書活動を促す。
 - 全クラスを対象に、ボランティアによる読み聞かせを実施し、本への関心を高める。
 - 学年に応じた必読図書を選定し、担任による働きかけを強化して読書の幅を広げさせる。
 - 図書館だよりの定期的発行や、うち読カードを使って保護者への啓発を図るとともに、家庭での読書の習慣化を図る。
 - 調べ学習や読み物学習に適した単元や題材を年計に位置付け、計画的に図書の活用技能を身に付けさせたり、司書が学習に関連のある本のブックトークを行ったりする。
- (2) 一人一人の児童が安心感をもって自己表現ができ、互いのよさを認め合える集団をつくることにより、自分のよさを発揮して生き生きと学び合うことのできる児童の育成を図る。
 - ① 国・県・市の調査のアンケート結果をもとに、児童の自己肯定感や自己表現力等の実態を把握し、学級集団作りに生かすようにする。
 - ② 授業や活動後に振り返りの時間を設け、自分の頑張りと友達のよさを伝え合うことで、自己肯定感を高めたり友達のよさに気付いたりできるようにする。
 - ③ 表現力の素地を育てるため、朝の会でスピーチタイムを取り入れる。
- (3) 家庭や地域との連携を図り、一体となって児童の学力向上に努める。
 - ① 前年度の実施状況をもとに計画を作成し、「読み聞かせボランティア」「街の先生」などのボランティアの協力を得た授業や学習支援を効果的に取り入れる。
 - ② □家庭訪問や個人懇談、学級懇談会において、保護者との情報交換を行い、家庭での規則正しい生活や学習習慣について啓発したり、保護者の意見を指導に生かしたりする。
 - ③ □家庭学習については、学年に応じた「家庭学習のしおり」や「家庭学習カード」を活用し、宿題の内容や量、自主学習への取り組み方について学年で歩調を合わせて指導し、家庭学習の習慣化を図る。